

くらしと水

平成26年

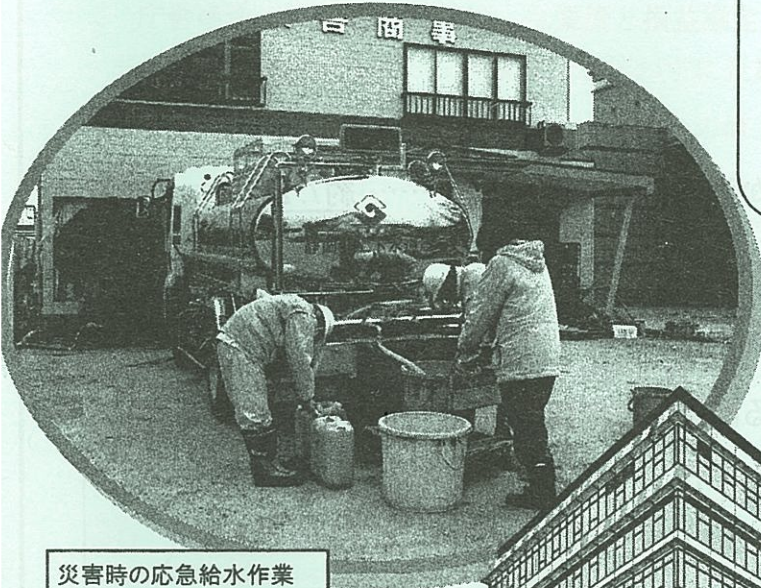
臨時号

発行部数：256,500部

- 災害に強い経営拠点の確立 - 上下水道局庁舎

上下水道局庁舎建設費の増額について、市民の皆様からの疑問にお答えするために、今回の「くらしと水」では庁舎建設を特集しました。

災害に強い経営拠点の早期建設を推進してまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

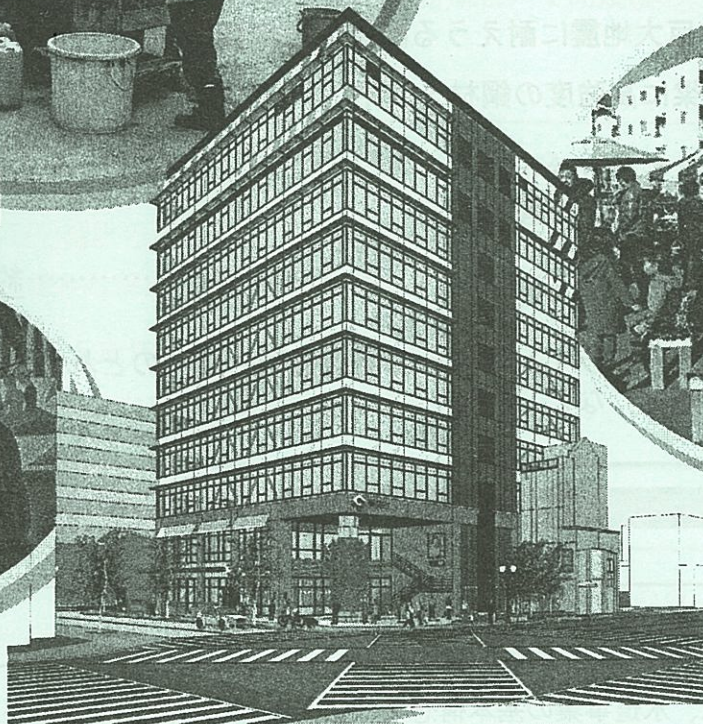


災害時の応急給水作業



旧オリオン座の壁画

この壁画(一部)も上下水道局庁舎の中で生き続けます。



アトサキセブンでのイベントの様子

上下水道局庁舎建設予定地「アトサキセブン」では、平成24年8月から平成26年2月までの約1年半、地元七間町の人々がまちおこしのために様々なイベントを繰り広げました。

■上下水道局庁舎建物概要

- ・ 建築面積 1,016.40㎡
- ・ 延床面積 11,421.35㎡
- ・ 建物規模 地上10階 地下1階
- ・ 構造種別 鉄骨造 制振構造採用
- ・ 高さ 49.8m
- ・ 駐車台数 53台
- ・ エレベーター 5台 (うち非常用エレベーター1台)

■各階構成

- ・ 地階 駐車場
- ・ 1階 レストラン、クリエイター支援センター機能、メインロビー
- ・ 2階 歯科診療所、クリエイター支援センター機能、ロビー
- ・ 3～7階 上下水道局
- ・ 8～10階 調理製菓専門学校

■建設費増額について

新庁舎の建設費については、当初、工事費として総額33億6千万円を予算計上していましたが、平成26年2月定例会において、建設費の予算総額を59億円に増額する補正議案を提出し、可決されました。なお、増額の理由などについては以下のとおりです。

■増額の経緯について

平成24年に、基本構想・基本計画の中で、施設の基本方針・コンセプト、導入する機能、施設の規模、施設の概略配置や概算の工事費を算定し、予算を計上しました。

その後、より詳細な仕様を決める実施設計の段階で、建設労務単価・建設資材の高騰や南海トラフ巨大地震に対応した耐震性能の強化、周辺景観への調和などを反映した結果、平成25年12月に大幅な増額となったものです。

■増額の内訳について

増額した内容は以下の3点です。

(1) 建設労務単価や資材価格が高騰したことのほか消費税の増税……………約7.2億円

平成24年度と平成25年度を比較し、

- ・建設労務単価が平均約15%上昇している
- ・主要な建設資材（鉄鋼、鉄筋、型枠等）の価格が平均約12%上昇している

(2) 防災拠点として南海トラフ巨大地震に耐えうる耐震性能の強化……………約9.8億円

- ・制振装置を増設し、柱や梁に高強度の鋼材を使用
- ・地盤を改良
- ・柱や壁などの地下構造躯体をより強化
- ・大会議室等の大規模空間の天井を耐震化

(3) その他……………約8.4億円

- ・消火・換気用設備の追加
- ・七間町エリアまちづくりガイドラインに沿った周辺景観と調和のとれた空間づくり
- ・エレベーター設置台数の増加 など

Q1 局庁舎建設の目的は何ですか？

局庁舎建設事業につきましては、水道事業の基本構想及び第1次基本計画（平成17～26年度）に掲げています。その目的は市民の皆様への安心・安全を確保するため、日常はもとより、災害時においても水の安定供給や迅速な復旧対応ができる、危機管理機能を備えた経営の拠点として整備することです。

Q2 建設予定地（葵区七間町）はどのようにして決めたのですか？

災害時には、緊急輸送路に指定されている国道362号にも面し、応援事業者の受け入れに適していること、県・市の災害対策本部に近く、通信手段が途絶えても情報の共有・伝達を図ることができるなど、防災上の観点に重きをおいて選定しました。

皆様からの声

これまで上下水道局庁舎建設に関してお寄せいただいた主な質問・疑問にお答えします。
なお、ホームページ上ではその他の質問についても掲載しています。

Q3 庁舎の建設費が増加したことで、水道料金が値上げにならないのですか？

庁舎建設の財源については、企業債と損益勘定留保資金（営業活動の結果、生じる利益や費用の中に含まれる減価償却費などの、現金支出を伴わずに企業内部に留保される資金）を充てる予定です。

従って、庁舎建設費の増額が直接水道料金の値上げにつながることはありません。

Q4 最初の予算額の積算に問題があったのではないですか？

当初の予算額は、施設の基本方針・コンセプト、導入機能、施設規模、概略配置に基づき概算工事費として計上したものです。具体的には中部地域（名古屋市）で同規模の一般事務所を建設する場合に用いる一定の計算式にあてはめ工事費を算出しました。

Q5 規模を縮小したり工事を延期できないのですか？

この庁舎の規模や仕様については、防災拠点としての機能、上下水道局としての事務所機能、街の賑わい創出の機能など、様々な課題に応えることのできる適正なものであると考えています。

また、南海トラフ巨大地震が危惧^{きぐ}されている中、庁舎を一日も早く完成しなければならないと考え、現在上下水道局をあげて全力で取り組んでいるところです。

Q6 上下水道局がなぜ街の賑わいづくりを行うのですか？

上下水道局庁舎は、防災拠点ですが、建設場所が中心市街地であることも考慮する必要があります。公営企業といえども、行政の一分野であることから、賑わいづくりに貢献しようと判断しました。

Q7 上下水道局が移転したあとの清水庁舎はどうなるのですか？

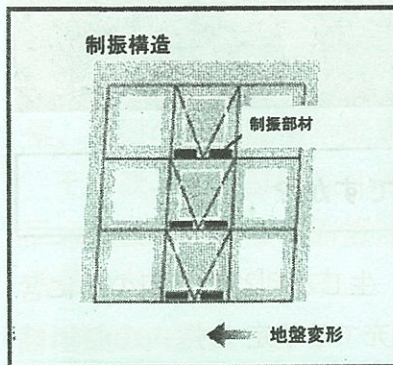
上下水道局は、現在、清水庁舎の6階、7階の2フロアを使用していますが、七間町への庁舎移転に伴い、およそ1.5フロアのスペースが生まれる見込みです。

空きスペースの利活用については、今後、防災面での検討のほか、施設の長寿命化、清水区のまちなかの賑わい創出などの観点から総合的に検討を行い、方針を決定することとなっております。

なお、上下水道局の市民サービス部門については、約60名の職員を引き続き清水庁舎に配置し、清水地区における市民の皆様の利便性を損なうことのないようにします。

安心・安全

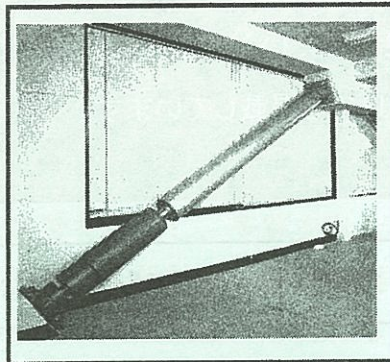
防災拠点機能としての整備を行い、市民の安心・安全を確保します。



南海トラフ巨大地震に対応した制振構造の採用

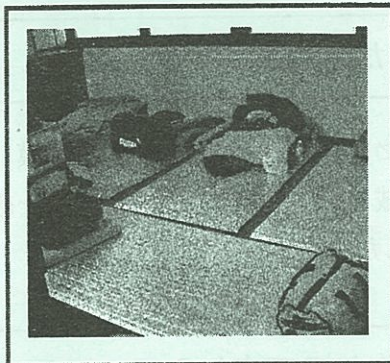
鋼やオイルを使用した「ダンパー」(制振装置)を壁や柱に設置することで、建物の揺れを抑制します。

建物の損壊を最小限に抑えることで、発災後においても即時に応急給水や復旧活動に出動できます。



より強化した耐震性能

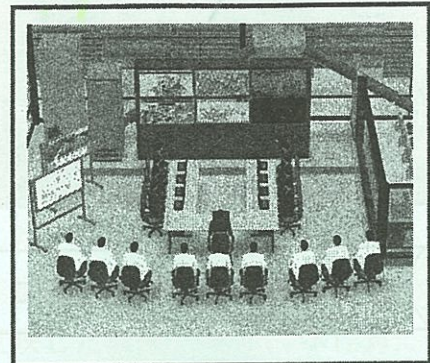
133か所に図のような「ダンパー」を設置し、耐震性能を高めます。



災害時の応援隊受入れ拠点

7階に設置する大会議室は、災害時には約120人の応援隊の受け入れ場所にもなります。

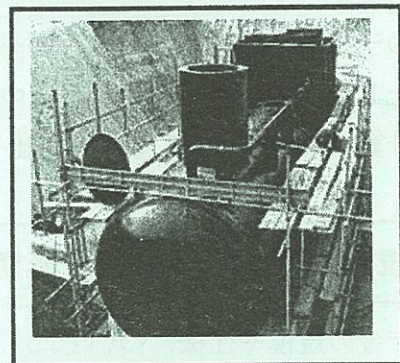
また、72時間の非常用自家発電装置を備えます。



災害対策本部機能

3階に災害対策本部、水運用センターを設置します。

災害時には情報収集と指揮命令を行う拠点となり、応急給水や復旧活動へのより迅速な対応を行います。



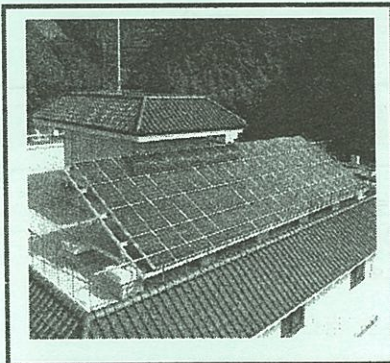
耐震性貯水槽の設置

10万ℓ貯水できる耐震性貯水槽を、庁舎広場の地下に埋設します。

10万ℓとは、1人1日3リットルを7日間、約4700人に供給できる量です。

環境にやさしい

省エネルギーや地球温暖化防止対策を行います。



太陽光発電・市産木材の利用

屋上への太陽光パネル設置、
しゃねつこうか
遮熱効果の高いガラスの採用などによる省エネ、建物周辺の緑化、メンテナンス性の良い外装材により環境にやさしい建物にします。

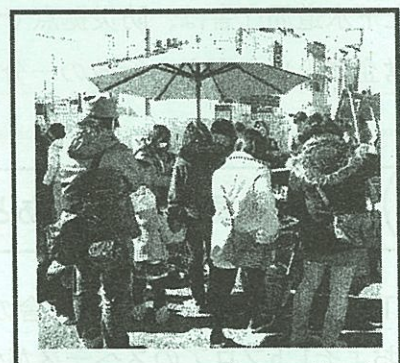
人にやさしく親しまれる

周辺環境に調和した賑わいを創出します。



周辺環境への調和

低層部は街並みにあったレンガやタイル貼り、高層部は周辺に圧迫感を与えない遮熱ガラスを採用します。



ピロティ・広場

庁舎建設予定地で地元の皆様が実施してきた活動等を展開できる公共広場を庁舎前に設けます。

お問い合わせ： 上下水道局 水道部 水道総務課 <http://www.city.shizuoka.jp/deps/suido/index.html>

平成26年3月31日まで TEL:054-354-2707 FAX:054-355-0715

4月1日から TEL:054-221-1148 FAX:054-355-0715